

登録番号 第 19884 号

ベルコート®フロアブル

●多くの病害に対して優れた予防効果を示します。
●病原菌の細胞膜に作用し、胞子発芽・発芽管伸長・付着器形成・侵入菌糸形成などを阻止することで病原菌の活動を強力に阻害します。
●フロアブル剤のため粉立ちも少なく、薬剤の計量が簡単です。また作物の汚れも軽減されています。

ベルコートは日本曹達(株)の登録商標です。

有効成分	イミノクタジンアルベシル酸塩（化管法第1種）・・・30.0%	包装	500ml×20
その他化管法該当成分	1-ドデカノール（化管法第1種）・・・3.7%		
性状	白色水和性粘稠懸濁液体	有効年限	4 年
毒性	普通物※	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害及び使用方法】

2024 年 2 月 28 日付内容

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 輪紋病 褐斑病 すす点病 すす斑病	1000～1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	6 回以内 （但し、開花期以降散布 は 3 回以内）	散布	8 回以内 （液剤及び水和剤は 合計 6 回以内 （開花期以降は 3 回以内）、 塗布剤は 2 回以内）
	黒点病	1000 倍					
なし	黒斑病 黒星病 輪紋病 うどんこ病	1500 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 （塗布剤は 2 回以内、 液剤は 1 回以内）
すもも	灰星病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 3 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
うめ	黒星病 灰色かび病 すす斑病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
小粒核果類 （うめ、すもも を除く）	灰星病	2000 倍	200～700 L/10a	収穫 30 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
おうとう	灰星病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	灰星病 ボトリツ腐朽病 黒星病	1000～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内 （休眠期は 1 回以内）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
初刈ン	灰星病 ホトシ腐敗病 黒星病	1500～2000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
みかん	そうか病 貯蔵病害 (軸腐病)	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病) 貯蔵病害 (黒腐病)	1000～2000 倍					
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病)	10 倍	4～5 L/10a		無人航空機 による散布		
		20 倍	8～10 L/10a				
かんきつ(み かんを除く)	そうか病 貯蔵病害 (軸腐病) 幹腐病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病) 貯蔵病害 (黒腐病)	1000～2000 倍					
	灰色かび病 貯蔵病害 (青かび病) 貯蔵病害 (緑かび病)	10 倍	4～5 L/10a		無人航空機 による散布		
		20 倍	8～10 L/10a				
くり	実炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
レタス	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キャベツ	菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 28 日前 まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじん	黒葉枯病 うどんこ病 斑点病 菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 14 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種子粉衣は 1 回以内、 無人航空機散布は 2 回以内)
	斑点病	8 倍	2L/10a		2 回以内	無人航空機 による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
らっきょう	灰色かび病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内
たまねぎ	灰色かび病 灰色腐敗病 小菌核病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5 回以内	散布	5 回以内
メロン	うどんこ病 菌核病 つる枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5 回以内	散布	5 回以内
すいか	炭疽病 うどんこ病 菌核病 つる枯病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	4 回以内	散布	4 回以内
かぼちゃ	うどんこ病	1000～2000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	4 回以内	散布	4 回以内
きゅうり	灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 菌核病 黒星病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	7 回以内	散布	7 回以内
にがうり	うどんこ病	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
なす	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病 黒枯病 褐紋病	2000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
トマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病	2000～4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
ミニトマト	灰色かび病 葉かび病 うどんこ病 すすかび病 斑点病	4000 倍	100～300 L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
いちご	炭疽病 うどんこ病 輪斑病	1000 倍	100～300 L/10a	育苗期 (定植前)	5 回以内	散布	10 回以内 (育苗期は 5 回以内、本 圃では 5 回以内)
	うどんこ病	2000～4000 倍		収穫前日 まで (生育期)			
	灰色かび病 炭疽病 黒斑病	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	褐斑病 斑点病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫開始 7 日前まで	5 回以内	散布	5 回以内
	斑点病	8 倍	1.6L/10a			無人航空機 による散布	
やまのいも (むかご)	青かび病	200 倍	－	植付前	1 回	1～10 分間 種いも浸漬	1 回
やまのいも	炭疽病 葉渋病	1000 倍	100～300 L/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	5 回以内 (種いもへの処理は 1 回以内、 無人航空機散布は 3 回以内)
	葉渋病	12 倍	3L/10a		3 回以内	無人航空機 による散布	
	青かび病	200 倍	－	植付前	1 回	1～10 分間 種いも浸漬	
茶	炭疽病 新梢枯死症 輪斑病	1500～2000 倍	200～400 L/10a	摘採 7 日前 まで	2 回以内	散布	2 回以内
アリス	青かび病	100 倍	－	植付前	1 回	10 分間球根 浸漬	8 回以内
		200 倍				30 分間球根 浸漬	
チューリップ	褐色斑点病 灰色かび病	1000 倍	100～300 L/10a	発生初期	8 回以内	散布	8 回以内

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	イミノクタジンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	温室、 ガラス室、 ビニールハウス 等密閉で きる場所	灰色かび病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 菌核病 黒星病	150ml/10a	10L/10a	収穫前日 まで	7 回以内	常温煙霧	7 回以内
なす	温室、 ガラス室、 ビニールハウス 等密閉で きる場所	灰色かび病 うどんこ病 すすかび病 黒枯病 褐紋病	150ml/10a	10L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	常温煙霧	3 回以内

使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤はイミノクタジンを含む農薬であるので、他のイミノクタジンを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲で使用する。
- (3) 5℃以下では増粘あるいは固化により、容器から取り出しにくくなるがあるので、50℃以上の湯に容器の肩まで浸し、1 時間以上経過した後、室温まで放置し、よく振ってから使用すること。
- (4) 本剤をおうとうに使用する場合、着色期の散布では葉害(着色障害)が生じるおそれがあるので使用しないこと。

- (5) りんごの落花直後から落花後 25 日ごろまではさび果を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (6) 西洋なしの品種レ レクチエではさび果を生じるので使用しないこと。
- (7) 缶桃 14 号等の缶詰用品種のもものでは葉に葉斑を生じるので、かからないように注意すること。
- (8) かきの品種西村早生では葉に葉斑を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (9) 幼果期のメロン、ばらに対して葉害を生じるおそれがあるので、かからないように注意すること。
- (10) キャベツに使用する場合、浸透性を高める効果のある一部の展着剤を混用すると葉害を生じる場合があるので、展着剤混用に当たっては事前にその適否を確認すること。
- (11) やまのいも(むかご)に使用する場合、種いも(やまのいも)を浸漬処理すること。
- (12) 本剤をチューリップに使用する場合、花卉に葉害が生じるおそれがあるので、出蕾期以前に使用すること。
- (13) 蚕に対して毒性があるので、桑にかからないように注意すること。
- (14) 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (15) 無人航空機による散布を行う場合には、次の注意事項を遵守すること。
 - 1) 散布機種種の散布基準に従って行うこと。
 - 2) 散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 散布中に薬液の漏洩がないよう、事前に機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - 4) 散布薬剤の飛散によって他の動植物等に影響を与えないよう、散布区域の選定に注意するとともに、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- (16) 常温煙霧処理する場合には、次の事項に注意すること。
 - 1) 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - 2) 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後 6 時間以上密閉すること。
- (17) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (18) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤飲などのないよう注意すること。
- (2) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (3) 薬液調製時及び使用の際は保護眼鏡、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (4) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (5) 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意すること。
- (3) 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (4) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常的使用方法ではその該当が無い。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密封して保管すること。